

令和6年度 椿小学校研修計画

1 主題

研究主題	説明的な文章を通じて表現力を高めていく授業づくり
教科・領域	国語科・説明的な文章

2 主題設定の理由

本校は、鈴鹿市の西部に位置し、児童 105 人が在籍する単学級の学校である。本校のある地域は、三世代家族が多く、昔からの慣習を重んじる傾向にある。そのような環境で育っている本校の児童は、全般的に穏やかで素直である。入学時から学級の顔ぶれも変わることなく、学年が上がっていくことや、新興住宅地がないという地域の特性から、転出入も少ないので、子ども同士の関係は比較的安定しており、構内の雰囲気は家庭的であるといえる。

しかし、本校の児童の学力については、「全国学力・学習状況調査」、「みえスタディ・チェック」の結果の分析、及び授業における児童の学習の見取りから、国語科「読むこと」・「書くこと」の領域に課題があることが平成 31 年度から分かってきた。

その課題の改善に向けて取り組んできたが、令和 4 年度の「全国学力・学習状況調査」国語科の平均正答率が全国平均-6 ポイント(本校:59% 全国:65.9%)の差が見られた。児童の解答分析で、「読むこと」においては、文章を正しく読んだり問題の意図を理解したりすることに課題があると分かってきた。

「書くこと」においては、自分の考えを文章で構成したり与えられた複数の条件に合わせたりして書くことに課題があると分かってきた。また、学力の定着に課題がある児童(いわゆる CD 層)が 55%と半数を超えていることから、基礎的基本的な学力を身につけられていないことも分かってきた。

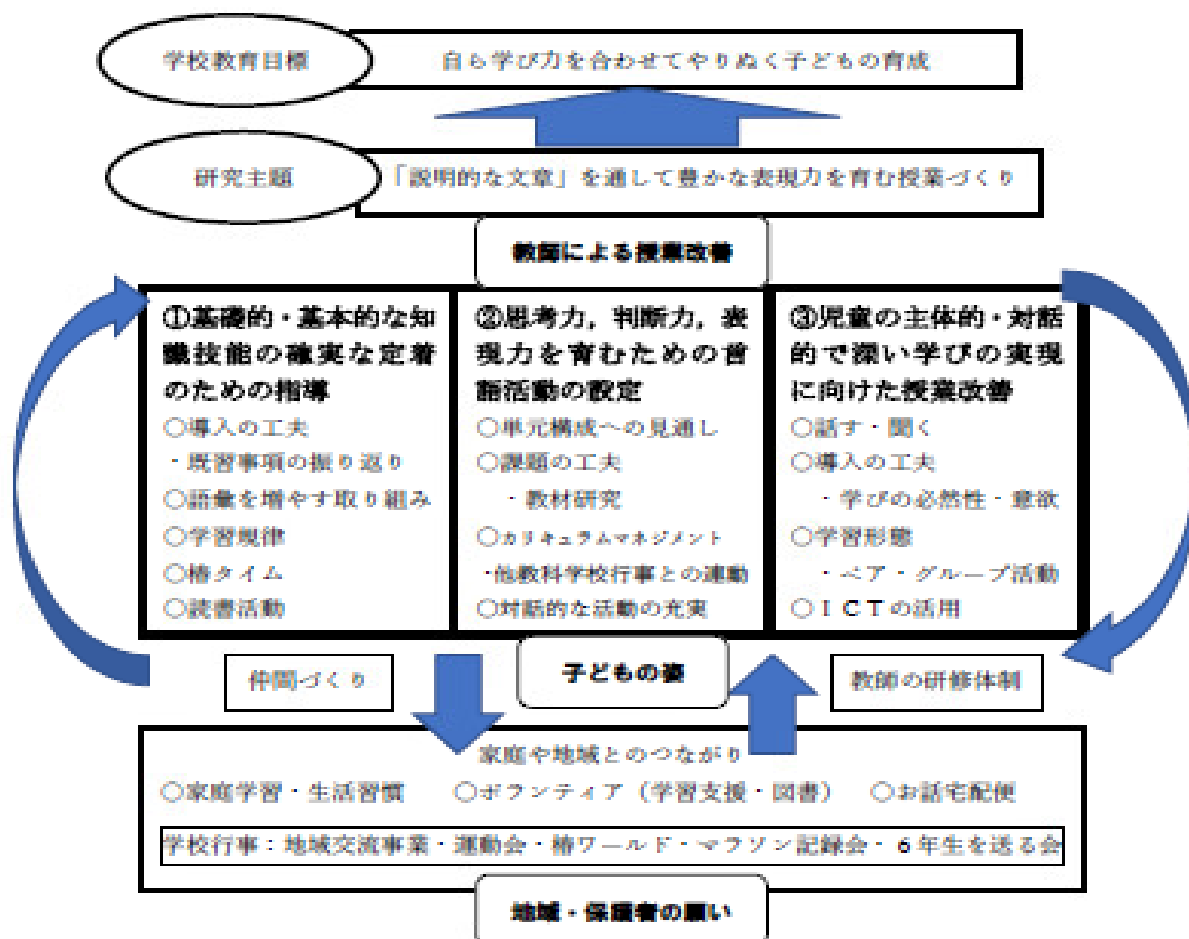
このような課題を改善するためには、文章の基本を学ぶことができる説明的な文章の学習を通じて、児童一人ひとりの「表現力」を高めていくことが必要だと考え、令和 5 年度の研究主題を『説明的な文章』を通じた豊かな表現力を育む授業づくりとした。

説明的な文章では、「話すこと」「書くこと」における基本的な話型や言い回しが多く用いられている。児童はこのような基本的な表現方法を獲得していくことで、自分の考えを端的に、根拠を示しながら相手に分かりやすく表現する力を身につけることができると考えた。そして、説明的な文章で学んだ表現方法を他教科や学校行事等、様々な場面で活用することができるように考えた。

令和 6 年度は、「説明的な文章を通じて表現力を高めていく授業づくり」として、研究主題の文言や仮説立証の手立てを整理して、さらに研究を推進している過程である。

3 研究内容及び方法

(1) 研究構想図



(2) 研究仮説と具体的な取組

研究仮説

説明的な文章を見通しをもって学習することで、知識・技能の確実な定着につながる。さらに、書いたり話したりする学び合いの言語活動を加えることで、児童の思考力・判断力・表現力が向上し、児童が主体的に表現する態度を養うことができる。

① 単元計画・学習活動の充実

単元を通じて児童に必要な資質・能力を身に付けるさせるために、児童の実態に即した単元計画を設定することが重要であると考えた。単元計画は、学習指導要領に設定された目標や指導事項を踏まえた上で、国語科教科用図書(光村出版)の単元末に掲載されている「見通しをもとう」を活用する。「見通しをもとう」には、児童の視点で次の4つの観点で書か

れている。

- ①とらえよう 教材文の内容を読み取る
構造と内容の把握
- ②ふかめよう 教材文を読み深める
精査・解釈
- ③まとめよう 教材文について自分で考えたことを書く
考えの形成
- ④ひろげよう 単元で学んだことを他者と交流し合う 共有



「とらえよう」では、文章の構造と内容を把握し、児童が文章を読むための基礎的な知識・技能の習得をめざす。

「ふかめよう」では、「とらえよう」で学習したことを基に、文章を読み深めていくための思考力・判断力・表現力の習得をめざす。

本校では、「ふかめよう」の場面を、研究授業の本時とし、指導者の指導言や児童の発言から児童の表現力の高まりについて検証を進める。

- ・ 児童の実態に応じた指導計画の作成
- ・ 「見通しをもとう」を活用した単元構成
- ・ 「たしかめよう」の取組徹底
- ・ 「ふかめよう」を研究授業の本時に設定

②めあてに正対したまとめ・ふりかえり

鈴鹿市教育委員会が授業づくりのスタンダードと示している「授業力UP5」を大切にしたい授業づくりをしていく。

その中でも「めあてに正対したまとめ」を意識して授業づくりを行っていく。本校では、授業づくりにおける指導の共通事項を以下のように設定した。

めあて…教師が身につけさせたいこと(ねらい)を、子どもの立場で示したもの。

課題…児童が身につけるべき資質・能力に向けた解決すべき問題。

まとめ…課題に対する答え・結論

「めあて」は、授業の展開前に提示され、児童が活動の見通しをもったり主体性を高めたりするために必要であると考え。児童の感想や疑問から出発した、児童が「考えたい」「理解したい」と感じるような「めあて」を設定していく。

○「めあて」視点

- ・ 本時で身につけたい資質・能力と一致しているか。
- ・ 児童が主体的に学習に取り組めるものか。
- ・ 「まとめ」や「ふりかえり」と正対しているか。
- ・ 本時の単元の見通しがもてるものになっているか。

「めあて」文末例

「～を見つけよう。」／「～を確かめよう。」

「～について考えよう。」

「～文章を書こう。」

「～伝え合おう。」／「～を話し合おう。」

「～を調べよう。」

「ふりかえり」は、本時における児童の学習感想を含んだ児童自身の自己評価となるものである。児童が設定された「めあて」に対して、活動の過程や方法・理解度や考えの変容を自身が俯瞰してとらえられえるように指導を進めていく。

○「ふりかえり」の視点

- ・理解の状況
- ・自身の取組の姿勢
- ・学びの過程や変容
- ・満足感や達成感
- ・新たな疑問

「～がわかった。～がわからなかった。」
「～することをがんばった。」
「～ができるようになった。～ができなかった。」
「～が楽しかった。」「～がうれしかった。」
「～の場合はどうなるのだろう。」

- ・ 「めあて」と「ふりかえり」を意識した授業づくり
- ・ 児童の思考の流れを意識した授業づくり
- ・ 「ふりかえり」で自身の学びを表現させる授業

③全文シートの効果的な活用

全文シートは、教材文を1枚で文章全てを見通すことができるシートである。このシートを活用することによって「初め(序論)」「中(本論)」「終わり(結論)」のような文章構成を視覚的にとらえることができると考える。児童が、文と文の関係、段落と段落の関係をとらえられるように読解の手立てとして取り扱っていく。

活用方法については、単元目標や指導事項に応じて語句や文章にサイドラインを引いたり段落を囲んだりする等、書き込みを行う。1枚のシートを継続して使っていくことで、児童が学習内容を想起し、前時までの学習と関連して考えられるようにしていく。全文シートを教室に掲示するなど学習の振り返りとして活用していく。

児童の実態や単元の特性に応じて、全文シートでなく教科用図書への書き込みや意味段落シートを活用する等、柔軟な活用を進めていく。

④対話的な学びを生み出す環境づくり

ペア学習・グループ学習を意図的に設定することで対話的な学びを生み出すことができると考える。それらを設定する際は、以下に示す具体的な意図をもって取り組ませる。

ペア・グループワークのねらい

- ・ 自分の考えを確かにして深める(自信)
- ・ 他の考えに気づき、思考を広げる(助言)
- ・ みんなで考えを練り上げる(練り上げ)
- ・ 考えの相違点や共通点を聞き合い、思考を深める(比較)
- ・ 考えを出し合い協働して解決する(協働)
- ・ 新たな考えを作り上げる(新たな発想)

- ・ 実態に応じた意図的なペア・グループワークの設定
- ・ 小集団対話的な活動の充実
- ・ ICTの効果的な活用と思考ツールの活用

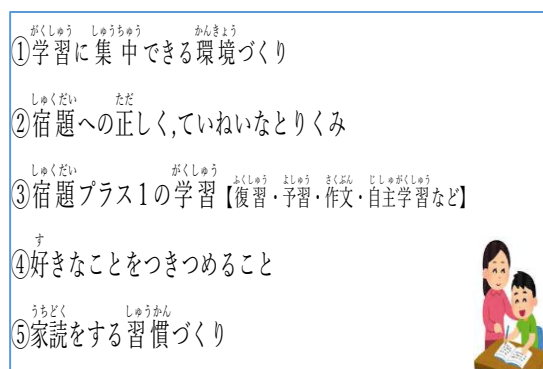
(3) 基礎・基本の定着に向けての取組

①家庭学習の習慣化

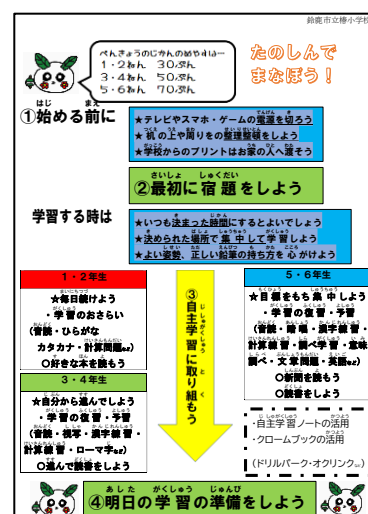
児童の基礎基本の学力を身に付けるために、家庭学習が重要であるととらえ、家庭学習の推進を行っている。年度当初に「家庭学習のてびき(椿小学校)」とその要点をまとめた「家庭学習UP5」配布し、家庭での学習環境を整えられるよう保護者、児童に啓発を行っている。令和5年度には、「家庭学習の進め方」も配布し、児童の家庭学習が習慣化を図っている。



○ 家庭学習の手引き



○ 家庭学習UP5



○ 家庭学習の進め方



本校では、学習内容の定着を図るために、音読・漢字・計算の3つを宿題として課している。加えて、週に1回以上、作文や自主学习ノートを児童に取り組む機会をもたせている。特に自主学习ノートは、「自主学习ノートの手引き」を全学年で配布し、1年生のころから取り組みを進めている。

また、ICT機器を活用した家庭学習も徐々に増えてきている。ドリルパークを活用した問題演習や新出漢字の学習やドキュメントを用いた感想文など、個別最適な学びを家庭でも進められるように取り組みを進めている。

○自主学习ノート手引き(低学年)

②中学校区で統一した学習・生活改善に向けた取組

鈴峰中学校区で学期に1度、「家庭学習強化週間」を設定している。令和5年度は、鈴鹿市の重点項目である学習時間・読書時間・スクリーンタイムの3つの改善に向けて、1・2学期は「家庭学習・読書強化週間」、3学期は「親子読書&メディアコントロール強化週間」として取り組んだ。学習時間は、(1日10分～15分×学年)を目安に各児童が目標時間を決めて、保護者と一緒に学習や生活の仕方を意識する機関になっている。学校と家庭が連携して取り組むことができています。

③椿タイム

椿タイムは、学力向上をめざし、3年生～6年生の児童を対象に、ひとつ前の学年で学んだ内容を復習することによって、学力を定着させる取組である。月曜日の6校時に年間5回実施している。算数のドリルを自らのペースで解いていき、学習ボランティアに1ページずつ採点をしてもらうようにしている。算数に苦手意識のある児童には、教員が個別指導を行い、学習内容をしっかりと定着できるようにしている。



④読む書くワークシート・よむYOMUワークシート

令和4年度から、児童の読む力・書く力を高めることを目的に、鈴鹿市教育委員会が提示する読む書くワークシート・よむYOMUワークシートに取り組んでいる。低・中・高の学年部で曜日を統一し、朝学習の一つと割り当て確実にに行えるようにしている。児童の学習の見取りを丁寧に行い、児童の実態把握、学力向上につなげているところである。

(4) 学校における読書活動の推進

・読書タイム

全校で、朝の10分間(8:25～8:35)を「読書タイム」と設定し、図書室で借りた本を読む時間としている。読書タイムを通して、児童が読書をする習慣をつけることを目的としている。児童はチャイムまでに着席し、自ら本を静かに読むことができています。教師も児童と一緒に読書をすることで、落ち着いて学校生活を始めるよう指導をしている。

・お話宅配便



ボランティアを活用した図書の読み聞かせを行う。令和5年度は年間14回実施し、全学年で取り組んだ。児童が本に興味をもったり自分から本を「読んでみよう。」と手に取ったりすることを目的に活動を進めている。ボランティア間でも読み聞かせをした学級の様子や選書等について交流を進め、お話宅配便が児童にとってより良い活動になるように考えている。

・学校図書館を活用した学習の充実

学校図書巡回指導員による学校図書館の整備を進めていく。学校図書館の配置変更や蔵書を整備して、児童が使いやすい図書館になるよう環境整備を進める。また、国語科の授業に合わせて、学級でブックトークを行ったり関連図書を置いたりして、並行読書を進めていく。

県の学校図書館活用推進事業を受け、学校図書館の充実を図る。学期に1回程度それぞれの学年で、三重県学校図書館アドバイザーの川口先生に図書館を活用して授業を行っていただく。令和5年度には、以下のような授業を行った。令和6年度も継続して、児童の効果的な読書活動を推進していく。

○ 学校図書館活用推進事業

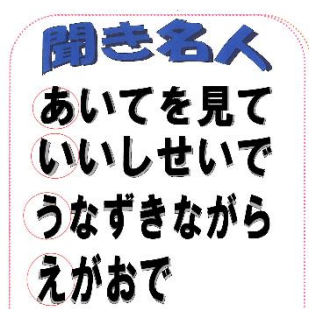
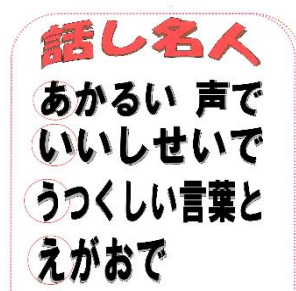


時期	学年	内容
6月	4年生	百科事典の使ってみよう
	5・6年生	ミニ切り抜き新聞を作ろう
10月	2・3年生	味見読書をしよう
	5・6年生	学習年鑑を使ってみよう
11月	1年	昔話を楽しんで読もう
	4・6年	物語を楽しんで読もう
1月	2・3年生	本のポップをつくろう
	4年生	学習年鑑を使ってみよう
	5年生	椋鳩十の作品を読もう

(5) 児童が語彙や表現力を身に付ける取組

相手に適切に伝える意識づけ

児童が学習中に、相手意識をもって話したり、聞いたりできるように、「話し名人」「聴き名人」を掲示する。合わせて、「声のものさし」を提示し、相手に適切に伝えられるように指導を進める。



・辞書引き学習

1年生から辞書を購入し、辞書を引く経験をさせている。低学年では、語彙を増やすため

に、物語文・説明的な文章の初めに、新出語句を辞書で調べる学習時間を設けている。高学年は、重要な語句について調べることで、クロムブックも効果的に使い語彙が増えるようにしている。

・音読

児童に音読をさせることで、語彙力や読解力を身に付けさせていく。声に出して読むには、漢字の読み方や単語の意味、文の流れや文章の切れ目を考えながら読む必要であるからである。加えて、自然と、文章構造や論展開を考えるようになるからである。また、音読をするということは、文章を目で追い、声に出し、自分の耳で聞くという能動的な活動であることから、授業や家庭で積極的に音読を取り入れていく

(6) 行事や活動を通して身に着ける表現力

・たて割り班活動

学校行事・学校生活において、たて割り班活動を積極的に取り入れている。

「わくわくタイム」は、全校児童を縦割りにして行う班活動で、月に1回、業間休みに異年齢でのふれあい遊びを行っている。6年生が中心となって遊びを担当教員に提案することや



下級生に遊びのルールを分かりやすく説明することで、相手に応じた話し方や答え方を身に付け、表現力を高めている。下級生は上級生との関わりから話し方や答え方を学び、言葉で友だちとつながる経験を積んでいる。また本校では、清掃活動において「縦割り掃除」を実施している。1・6年、2・5年、3・4年がペア学年となり、毎日校内清掃に取り組んでいる。上級生が下級生に掃除の仕方を分かりやすく教えたり分担を提案したりするようにし、互いに関係を深めながら表現力を高めている。

○自己紹介をする児童（わくわくタイム）

・英語劇・寸劇(椿ワールド・6年生を送る会)

「椿ワールド」は、11月に行われる全学年による英語劇の発表会である。低学年はE E タイム(Enjoy English time)、中学年は外国語活動、高学年は英語の授業で学習したフレーズを中心に各学年10分程度の劇を構成する。

3月の6年生を送る会でも同様に、多くの学年が寸劇に取り組んでいる。6年生との思い出や国語科の作品を基にした劇を考え、発表をしている。

他学年の児童や教職員、保護者や地域の方等の参観者に向けて、言葉と身振り手振りで表現する姿が見られている。各学年の児童の成長や活動の充実を実感できる場になっている。



○ 1年生 Flower road(はなのみち)



○2年生 お手紙

・感謝の手紙

本校では、総合的な学習や特別活動として、地域交流や外部講師を招聘した出前授業を積極的に行っている。その都度、感想文や手紙を書く活動を取り入れている。国語科や書写の感想文やお礼状の単元と関連付けながら、児童一人ひとりが学びを言語化できるよう指導をしている。どの児童も自分なりの感謝の表現を用いて書く姿が見られており、表現力を高める取組の一つになっている。

4. 主な研究日程（R6）

月日	内容	指導主事要請など
4月3日(水)	校内研修共通理解	
4月中	研修計画書の確認, 示範授業研修共通理解(指導案様式等の確認)	
4月18日(火)	全国学力学習状況調査 6年 質問紙23日, 経年調査()日	
4月25日(木)	みえ・スタディチェック 4年	
4月26日(金)	みえ・スタディチェック 5年	
5月中	校区連携研修長会議	
5月末	学調みえ・スタ分析(自校採点)	
5月29日(水)	授業公開1 4年生(示範)	指導主事
6月26日(水)	授業公開2 5年生	指導主事
7月初～	指導案作り	指導主事
7月中	授業公開3 めだか学級	指導主事
7月30日(火)	夏の校内研修	指導主事
8月初	校区連携指導案検討1	
8月末	校区連携指導案検討2	
9月～10月	校区連携先行授業実施	

10 月初	研究発表会打ち合わせ	指導主事
10 月 18 日 (金)	研究発表会	指導主事 4 名
	人権公開授業	指導主事
1 月中	みえ・スタディチェック 5 年	
1 月末	みえ・スタディチェック 採点	
2 月初～	研究の成果と課題まとめ	
3 月中～	来年度に向けて年間計画の見直し	

5. 授業公開 (R6)

- ・担任は、全員が授業を公開する。
- ・事後検討会は、教室棟 2 階を使用する。低・中・高・特別支援の 4 つに分散。それぞれの分科会に指導主事の派遣を要請する。

理科室 家庭科室 図工室 図書室

- ・研究概要は動画配信し、掲示物は Google ドキュメントに貼り付けてリンクで見られるようにする。→時間短縮と作業の効率化を図る。(働き方改革)
- ・